

平成26年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立北川副小学校		
2 所在地	佐賀市木原三丁目12-1		
3 校長名	松田美恵		
4 学級数 児童生徒数	20学級 536人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 536人

6 取組のねらい

- ・どんな人でも暮らしやすい社会にするために、身の回りの「ユニバーサルデザイン」を探したり、考えたりして「ユニバーサルデザイン」についての理解を深める。
- ・さまざまな人とのふれあいを通して、人の違いや多様性を受け入れ、助け合い、支え合おうとする態度を養う。
- ・学校生活をユニバーサルデザインにすることにより、生活の仕方を分かりやすくする工夫・改善を図る。
- ・授業のユニバーサルデザイン化をしくむことにより、特別支援教育の視点を取り入れ、全員の児童が楽しく「わかる」「できる」ように工夫・配慮された通常学級での授業のデザインを行う。

7 取組の実際

(1) 「ユニバーサルデザイン」についての理解

①ユニバーサルデザイン出前講座

(10月31日(金) 2校時 体育館 4年生児童 89名参加)

佐賀県ユニバーサルデザイン推進グループから来ていただき「ユニバーサルデザイン出前講座」を実施した。

「ユニバーサルデザイン」て何だろう？	身の回りのユニバーサルデザインを知る。	実物を見たり触ったりして
		

ユニバーサルデザイン出前講座 児童の感想

A児：シャンプーやリンス、ペットボトルなど私たちが当たり前に使っているものにユニバーサルデザインがたくさんあることが分かりました。身の回りにあるユニバーサルデザインをもっと探してみたいです。

B児：パーキングパーミットは、特に体が不自由な人のためにあって、にんぷさんにはパーキングパーミットプラス1というものがあることを知りました。

C児：私だけがよくても、他の人が不自由・不便だと、それは「ユニバーサルデザイン」とは、言うことができません。私は、人間はパズルのようなものだと思います。パズルの欠けている部分を他の人が助けるというように、人にはみんな欠けている部分があるから、それをみんなで助け合う、それが「ユニバーサルデザイン」だと思います。「ユニバーサルデザイン」は、まさに「みんなちがって・みんないい」です。

② 2学期 総合的な学習「北小 ユニバーサルデザイン研究所」

身の回りのユニバーサルデザインや社会の様々なユニバーサルデザインについて、書籍、インターネット、現地調査、インタビューなどで調べ学習を行い、フリー参観日に全校児童、保護者、地域に向けて発信した。



	【4年生】 北小ユニバーサルデザイン研究所		
	4の1	4の2	4の3
発表 Ⅰ 10:00- 10:20	◆くらしの中のユニバーサルデザイン ◆新校舎のユニバーサルデザイン1	◆家庭の中のユニバーサルデザイン ◆学校のユニバーサルデザイン	◆道具のユニバーサルデザイン ◆乗り物のユニバーサルデザイン
休憩			
発表 Ⅱ 10:30- 10:50	◆駐車場のユニバーサルデザイン ◆新校舎のユニバーサルデザイン2	◆建物のユニバーサルデザイン ◆乗り物のユニバーサルデザイン	◆家の中のユニバーサルデザイン ◆ユニバーサルデザインをつくる
休憩			
発表 Ⅲ 11:00- 11:20	◆自動販売機のユニバーサルデザイン ◆新校舎のユニバーサルデザイン3	◆物のユニバーサルデザイン ◆スポーツのユニバーサルデザイン	◆道具のユニバーサルデザイン ◆買い物にかかわるユニバーサルデザイン

各クラスの発表内容



自動販売機のユニバーサルデザインについてのプレゼンテーション



スポーツのユニバーサルデザインについて調べたことを、〇×クイズに



パーキングパーミットの良さを伝えるための劇。



完成間近の新校舎のユニバーサルデザインについて調べたことをランキング

新校舎のユニバーサルデザインランキングベスト5



「北小 ユニバーサルデザイン研究所」児童の感想

D児：ユニバーサルデザインは、一人が作るものではなくて、みんなが協力して作る（できる）ものだと思います。例えば、点字ブロックの上に自転車を置いていたらユニバーサルデザインではなくなると思いました。みんな一人一人が違うからこそ自分と違う人のことを思い、助け合うことが大切だと考えました。私も私と違う人の気持ちになって、人を助けたいと思いました。

E児：他の県や他の国のユニバーサルデザインも調べたくになりました。町を歩いた時にたくさんユニバーサルデザインを見つけられるようになりました。

F児：ユニバーサルデザインを勉強してとてもよかったです。ぼくが大人になったら、年をとったお母さんたちのためにユニバーサルデザインを使おうと思ったし、ぼくがお年寄りになったときも、安心だと思います。

G児：新校舎のユニバーサルデザインを調べて、ぼくたちも今よりもっと安心して勉強できると思ったし、外国から来た子や障がいのある子も、北川副小学校で楽しく過ごすことができそうだなあと思いました。

（２）人の違いや多様性への理解

①福祉体験学習

（12月5日（土）1～4校時 体育館・図工室 5年生児童 100名参加）

佐賀市社会福祉協議会の協力により、アイマスク・車いす・高齢者体験装備を借用し、体験を行った。講師5名。保護者6名参加。

（ア）アイマスク体験

それぞれ児童がアイマスクを装着して、壁に向かって真っ直ぐに歩いたり、ペアの友達に手を引かれて障害物（机）を回避しながら歩いたりする体験を行った。

壁に向かって歩く	友だちに手を引かれて①	友だちに手を引かれて②
		

アイマスク体験 児童の感想

H児：アイマスクをして歩くと人に当たったりして怖いと感じました。思ったより目標まで遠くて、二人でしたときはどこに行っているのかが、分からなかったりしてびっくりしました。

I 児：アイマスク体験は、前が見えなかったし、暗い感じだったので、すごくこわかったです。短いところが長く感じるということが分かりました。
 J 児：目が見えないまままっすぐ歩くのは、大変だということが分かりました。また、目が見えないとすごくこわいことも分かりました。

(イ) 車いす体験

車いすの置き方、広げ方、たたみ方を教わりやってみた。その後、車いすを利用している人への手助けの仕方や段差のあるところの押し方を体験した。

車いすの置き方	低い段差の補助の仕方	少し高い段差の補助の仕方
		

車いす体験 児童の感想

K 児：おじいちゃんやおばあちゃんが歩けなくなったときは、正しいやり方で押してあげたいと思いました。車いすの人が町で困っていたら、正しい声のかけ方で誘導したいです。

L 児：車いすに乗っている人に声をかけるときは横から声をかけるということと、少し距離を置いて声をかけるということが分かりました。

M 児：車いすに乗っている人も押している自分もけがをしないようにしなければいけないし、車いすの人の気持ちも考えなければいけないと思いました。車いすの人にお手伝いするときには、車いすの人に対して少し気づかったり助けたりして、マナーを守らなければならないと思いました。

(ウ) 高齢者体験

高齢者体験グッズを装着して、階段の上り下り、ペットボトルからコップに水を注ぐ、箸を使って豆を皿から皿へ移すなどの体験を行った。

階段の上り下りをする	ペットボトルから水を注ぐ	豆を移す
		

高齢者体験 児童の感想

N児：体が重くて立ちづらかったし、階段も登りづらかったです。豆をつかむときもぼんやりして取りにくかったです。光って見えたりしました。おじいちゃんたちは大変だなと思いました。

O児：私たちと違って身軽ではないので、歩いたりするのがとても難しいです。おじいちゃんおばあちゃんはこんなにきつい思いをしているんだと体験して初めて思いました。体験してみて高齢者の気持ちが分かりました。

P児：体が重くなって、高齢者の気持ちが分かったので、いつもよりもっと高齢者には優しく接したいなと思いました。

②介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム「つぼみ荘」の訪問

1月29日（木）5～6校時 5年1組児童 34名参加

2月 5日（木）5～6校時 5年2組児童 33名参加

2月12日（木）5～6校時 5年3組児童 33名参加

(ア) 施設見学

クラスごとに「つぼみ荘」を訪問し、施設の見学やお年寄りとの交流を行った。職員の方より「つぼみ荘」の介護活動や施設についての話を聞いた後、居室・洗面所・トイレ・浴室などの見学をした。

施設見学 児童の感想

Q児：「つぼみ荘」では、お年寄りが暮らしやすいように、いろいろ工夫がしてありました。たとえば、車いすのお年寄りもたくさんいるから、階段などにゆるやかな坂道をつくり、車いすの人でも簡単に上ったり下ったりできることや、決まったことをすることで、活動的になるなどいろいろ工夫してありました。

(イ) お年寄りとの交流

劇や歌などを披露し、その後折り紙やお手玉などをしてお年寄りと交流した。

劇をする児童	紙芝居する児童	折り紙で交流する児童
		

お年寄りとの交流 児童の感想

R児：お年寄りと交流したときに一番心に残っていたのは、プレゼントを渡し

たときに、涙を流して喜んでくれたことがとってもうれしく心に残っています。あく手をするとき、「また来てね。」と言われたので、いつかまた行きたいです。

S児：私はこの交流で、お年寄りの方はとてもすばらしくて、お年寄りの方が困っていたら、助けなければならないと思いました。私は習い事をバスで行っている時、お年寄りの方がバスに乗ってきたら席をゆずってあげようと思いました。

T児：お年寄りの方にプレゼントを渡して「ありがとう。」と言われた時はとてもうれしかったです。お年寄りの方につるなどを作ってあげると何度も「ありがとう。」と言ってくれたのでうれしかったです。「つぼみ荘」訪問で、私は人が私のために何かやってくれたら「ありがとう。」と言うことを忘れないようにしようとあらためて思いました。

（３）「学校生活のユニバーサルデザイン化」の取り組み

①学校の決まりをUD化

変化の対応に抵抗が大きい子もいるので、給食、掃除、学習の約束をなるべく学校で統一することとした。その約束については、学年初めの赴任式後に、全校児童に向けてプレゼンテーションを行った。

②刺激の少ない教室環境

教室には、児童によっては音や掲示物などが学習上の支障となる場合がある。そこで、すべての教室をできるだけ刺激の少ない教室環境になるように取り組んだ。それにより、落ち着いた学習環境で取り組むことができるようになっている。



前面の黒板まわりには、掲示物を貼らずに学習時に黒板に集中できるようにした。教卓の上には積荷をしないように心がけた。



消音のために全校児童の椅子の足にテニスボールをはめた。児童の机の横には、ブックバッグのみで統一した。



どこに何をおくのか、具体的に示し、整理をした。提出物の回収箱には色分けをし、すぐに区別ができるようにした。

8 取組の成果と課題

○成果

- ①「ユニバーサルデザインとは何か」を学習していくうちに、身の回りにはいろいろなユニバーサルデザインのものがあるということに気づくことができ、障がい者だけに関係のあることではなく、子ども達自身も含めて誰にでも関係のあることだととらえられるようになった。また、自分たちでユニバーサルデザインを進めていこうとする態度が見られるようになった。
- ② アイマスク体験、車いす体験、高齢者疑似体験を通して、相手の立場や気持ちを考えることが大切であることを感じる事ができた。その後に、つぼみ荘（老人ホーム）訪問が出来たので、体験して学んだことを実践に生かす事ができた。
- ③給食、掃除、学習の約束を学校で統一したため、新学期の変化に対応できない子が戸惑うことなく、新しい学年のスタートを切ることができた。また、すべての教室で刺激の少ない教室環境に取り組み、落ち着いて全員が学習に参加することができるようになってきた。
- ④教職員が、児童の実態を通して自分の手立てを見直すなど教員の意識改革につながった。

○課題

- ①4年生は、フリー参観で全校や地域に向けた発信活動の場を設けていたが、5年生の活動では、学級内や学年内での発表会は行ったものの、全校児童や校外への発信活動はできなかった。
- ②給食、掃除、学習の約束ごとなど教職員の共通認識が常に必要である。
- ③いつでも支援するだけでなく時には習得をするときに支援をせずに、見守らなければいけない。発達段階に応じた兼ね合いが難しい。
- ④交流体験活動を異校種、外部の団体等と実施していく上で、事前打ち合わせの時間の確保が現状では不十分である。校内での連携・調整役としてのコーディネーターの設置が急務である。
- ⑤今後は、PTA、地域へさらに情報発信していきたい。中でも、PTAとの連携では、PTA県大会で「ユニバーサルデザイン教育」の提言を予定しており、児童一人一人が、互いを理解し、互いに尊重できる学校生活の実現に努めたい。